

平成20年度第3回定例会

日 時： 平成20年10月30日（木）午前10時～

場 所： 本館講座室

- (会長) では第3回定例会を始める。まず報告事項からお願いします。
- (事務局) (平成21年度の予算について、図書館の事業の説明、報告)
- (会長) 協議事項の「中央図書館機能について」に移る。
- (事務局) (諮問文書の読み上げ、会長に手渡し、各委員に写しを配布)
- (会長) 諮問に関して説明をお願いします。
- (事務局) 戦略プランの中で中央図書館機能がどのように位置付けられているか、年次計画では平成20、21年度は内部検討となっており、この内部検討の部分について、図書館協議会に諮問させていただいた。
- (会長) 平成10年にも図書館協議会から中央図書館について、答申が出されているが、その頃と著しく変化し、やりたいこととできることの違いをどのあたりに落としどころにするか。
- (委員) 年次の計画表によると、今年内部検討とあり2年後にまた懇談会による検討とある。何年かけてやるのか。この懇談会というものは何なのか。またこの図書館協議会はどのような位置付けで、どこまでの権限がありどこまで責任を持つのか。
- (事務局) 図書館協議会は図書館長の諮問機関であり、諮問について答申し、図書館の奉仕に対して意見を述べるとしている。今までの総合計画審議会や財政状況、優先順位などを勘案すると、図書館が描いてきたそのものを持って中央図書館機能と出していくのは無理がある。図書館を理解していただきながら、公正な目で見えていただき、多摩市全体に対してあるべき図書館サービスというものを考え、今のサービスに検討を加えながら、どういう規模の施設が望ましいのか、全体の配置の見直しなど、客観的な立場でご意見をまとめていただけたらと思っている。懇談会の構成は未定だが図書館の専門、市民などである。内部検討の結果を踏まえ方向を決定していく。
- (委員) では図書館協議会が出したものは懇談会のたたき台になるだけなのか。
- (事務局) 図書館としての考えをまとめていくときのベースになる。
- (会長) 館長の諮問機関なので条件的な制約はあるが、図書館の考え方を出すときに図書館協議会の考え方が裏付けとなる、保障というような性格だ。
- (委員) 懇談会とは何なのか。市長の諮問機関になるのか。

- (事務局) 構成や位置付はまだ決まっていないが、内部検討を踏まえた方向の決定に繋げていく場は必要である。
- (委員) 懇談会のイメージには、図書館の専門的な方や市民が入るといっていたが、図書館協議会でも同じである。財政的な事情など総合的な観点から考えなくてはならないというのならわかるが、それぞれが同じような構成メンバーで何度もやって、何年もかけ、ただ時間をかけてやるだけではないか。
- (事務局) 図書館協議会では、幅広く意見をいただき、専門の立場から図書館のよりどころになるような答申を出していただきたい。
- (会長) どこまで力をいれていいかという難しさはある。期間内に答申は出すが、その先は行政にゆだねるといった、なんとなく空回りということもある。
- (事務局) 中央図書館の案は今までもいろいろあったが、現実として説得力のあるものにしていただきたい。
- (委員) 懇談会に出して、ベースになって重視されるものを出して欲しいということか。
- (委員): 永山と関戸図書館を利用しているが、駅から図書館へのアプローチが下手であると感じる。関戸図書館ができた頃は、ショッピングセンターも活性化していたよかったが、現在は廃墟のようで、空いているテナントばかりである。利用者が図書館まで行き着くものが何もない。図書館の努力だけでなく、街を活性化しザ・スクエアの方へ人が流れるような方法や工夫が必要である。例えば「耳をすませば」のロケ地の案内が聖蹟桜ヶ丘駅にあるが、地区全体でロケ地のイメージを観光化させるなど活性化をするべきだ。永山は図書館への矢印を設置すれば、人はくるのではないか。
- (会長) 貴重な意見である。図書館があるからザ・スクエアに引っ越してきた方もいる。今のままではいいことではないので、何とかしたいと思う。
- (委員) 旧本館と今の本館を利用しているが、他の委員はいろいろな図書館を見ているのか。各図書館を見学し回るとイメージが湧きやすい。
- (委員) 本館と永山は行ったことがある。関戸図書館は関戸橋のあたりのことかと思っていた。
- (委員) 永山図書館は通勤の途中であるが、まだ寄ったことがなく、他の図書館も行ったことがない。
- (委員) 旧、新の本館と、東寺方図書館は知っている。他の図書館はその気になって調べればわかると思うが、行ったことがないのが現状である。
- (委員) 仕事で本館や関戸を、永山を児童コーナーが充実しているので家族と使っている。聖ヶ丘、東寺方は場所は知っているが、使ったことはない。

- (副会長) 全部の図書館を使ったことがあるが、地理的には永山、本館、以前は関戸をよく利用していた。
- (会長) 私は、全部の図書館を制覇している。関戸図書館がどこにあるのかという表示はない。
- (委員) 永山図書館もない。
- (事務局) 調整して改善していきたい。
- (委員) 本当の図書館というのは内容的なものを深める必要があり、それを掘り起こすのは時間がかかる。子どもたちには、自分の力で本を読む、読み聞かせだけではだめだと話しているが、そのような素質を持った市民を育てなければならない。長野県の飯田市の図書館は、絵本が充実していたり、ある作家が充実したり特色があった。先ほどの「耳をすませば」のように関戸図書館は充実するとか、それぞれの図書館で特色を出して、またそれを求めた人たちがきて内容を深め、拡大していく。足の便の悪さを乗り越えた魅力と、今のサービスプラスアルファ、周知していく広報活動をすればいろいろな戦略も具体性ができ、お金をかけずにできるのではないか。
- (会長) 今後の大きな課題なので、委員の協力をいただきながら作っていききたい。
- (委員) 先ほどの「耳をすませば」の内容がわからないが。
- (委員) ジブリの作品で多摩市が舞台である。
(「耳をすませば」の説明)
- (副会長) 以前配布された平成20年度の図書館の目標の中に、あたらしい図書館づくり報告書とあるが、どこがどのようにまとめたものか。
- (事務局) 文部科学省のこれからの図書館像を踏まえて職員で検討した。作成のきっかけは、指定管理者制度を検討するという課題があり、図書館運営に関し、いろいろな体制を比較検討したことである。
- (副会長) それぞれの立場で、意見が違うのはわかるが、同じようなテーマでも何度も話し合っても、生かされていない気がする。図書館協議会で答申した平成10年の「多摩市中央図書館の施設整備および図書館サービスのあり方について」も、状況が違っているのもそのままというわけにはいかないが、それをたたき台としてさらに不足の部分を補っていくのはどうか。
- (事務局) ここ10年の図書館をめぐる変動は大きい。管理運営の経営手法、IT技術の進歩、図書館の役割等踏まえてお願いしたい。
- (会長) 今後の7回くらいの中で、まとめていく予定だ。難しい仕事ではあるが協力をお願いしたい。
- (委員) 進め方として、図書館側の問題点の項目を整理したものをいただいた

方が、図書館協議会でも議論しやすいのではないか。

(委員) 今まで図書館協議会などで話してきたことに対し、図書館としてどのように方向を持つのかということが見えていると、話がしやすい。図書館をサポートしていかなくてはならないのが、反対ばかりでは今まで作った人たちに応えられない。図書館として欲しいことがわかれば、肉付けしやすく、またやってはいけないことは、今まで作ってきたことをひっくり返すようなこと、今までの時間を無駄にはしたくない。

(委員) 図書館の論点、希望がわかるようにして欲しい。

(事務局) 図書館の課題、問題点の整理など出したいと思う。今までの図書館の道筋を提示したい。

(委員) 10年先のプランを考えていくということだが、この間の現実的な、暫定10年間の改善・充実・戦略プランはあるのか。

(事務局) 内部で検討した今後の図書館像にアクセスしていく年次プランをつくろうとしている。身近な部分は、これからである。

(委員) 現実的な部分をやっていくことができると、先のことも内部から出てくるのではないかと思う。

(事務局) 本館の環境整備などは移転してそれほど経っていないので、これから考えていくところである。

(委員) 資料の督促状に対し、代金等は出すべきだ。最初からルール化し、手数料等いただいたらいいか。直ぐにできない場合は募金箱など用意するなどしたらいいかがか。

(委員) 大学図書館などは遅れたら罰金を取るところはあるが、公立は取っているところはまだないと思う。

(委員) お金の問題だけでなく、返すのが遅れた日数だけ次は貸すことはできないとしているところもある。お金でない、ソフトな方法もあるか。

(委員) モラルの違いが現実である。

(委員) 罰金という形ではなく、督促手数料として言ったら批判がくるのか。

(事務局) 図書館には無料の原則がある。市民の共有財産として皆さんに回していこうと考え、平成15年に貸出停止のペナルティを課した。まだまだ利用者マナーの問題はあり、財政的な負担がある。資料は財産の公平な分け合いのシステムであり、図書館の運営は利用者の協力なしではできない。

(副会長) 図書館の案内表示をできるところからお願いしたい。

(会長) これで終了する。お疲れ様でした。